



2016年トレンド予測

進学領域

進学情報サイト・情報誌

情報誌

PCサイト

モバイルサイト

高校生の進路選択をサポートするサービス

リクナビ進学ブック



リクナビ進学

<http://rikunabi-shingaku.com>



受験サプリ

英語サプリ

<http://jyukensapuri.jp/>



ステークホルダーへの情報発信

大学経営層対象 高校教員対象

カレッジマネジメント キャリアガイダンス

リクルート進学総研サイト

<http://souken.shingakunet.com/>



キーワード

大学は、
どのような人材育成をし、どのような意欲や能力をもった学生を求め、どう評価するのかを
メッセージする。

高校生は、
メッセージを受けて自分に合った大学を主体的に選択する。大学と高校生が相互選択する入試。

偏差値で選ぶ入試から、大学の求める学生が受験する入試へ

相互選択型入試

■ 相互選択型入試が増加している背景には下記5点がある。

- ①これから求められる「学力の3要素」と「確かな学力」
- ②社会的後押し（政府が進める高大接続改革の動き）
- ③時代背景 ～求められる人材像の変化～
 - ・企業からの要請
 - ・高校生の課題意識
 - ・大学の変化
- ④方向性は、大学の理念にあった人材の多面的・総合的評価（学力＋意欲）
- ⑤全員ではなく、まずは教室の前から座る意欲の高い30%をどう獲得するか

これからの社会で求められる「確かな学力」

学力の3要素

- ① 基礎的・基本的な知識・技能
- ② 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な
思考力・判断力・表現力等
- ③ 主体的に学習に取り組む態度

出典：学校教育法 第30条第2項

学力の3要素からなる「確かな学力」

- ① 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
(主体性・多様性・協働性)
- ② 知識・技能を活用して、自ら課題を発見しその解決に向けて探究し、
成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力
- ③ 基礎となる「知識・技能」の習得

出典：中央教育審議会「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について(答申)」
(2014年12月)より抜粋

しかし、現状の入試はペーパーテストで
「知識・技能」を一点刻みで評価している面が強いのでは？

<現状の課題>

現状の高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜は、**知識の暗記・再生に偏りがちで、思考力・判断力・表現力や、主体性を持って多様な人々と協働する態度など、真の「学力」が十分に育成・評価されていない。**

2020年に向けた入試改革の方向性

各大学のアドミッション・ポリシー(入学者受け入れ方針)に基づく個別選抜の確立

従来

画一的な一斉試験で正答に関する知識の再生を問う評価に偏ったもの



今後

各大学の入学者選抜方法を、「学力の3要素」を多面的・総合的に評価するものへと転換することが必要

出典：中央教育審議会「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について(答申)」(2014年12月)より抜粋

入試~~改革~~ ⇨ 教育改革

大学に求められているもの

こんな人材を育てたいという強い想い
(学校のDNA)

ミッション・ビジョンの明確化

建学の精神
教育の理念

入学者選抜は
大学のメッセージ

独自性・個性の明確化
(特色・役割・価値)

どのような学生に
来てほしいのか?

どのような卒業生を
社会に送り出すのか?

アドミッション・ポリシー
(入学者受入れ方針)

カリキュラム・ポリシー
(教育方針)

ディプロマ・ポリシー
(学位授与方針)

どのような学生に来て
ほしいのか、どのよう
な要件(学力、意欲
等)が必要で、それを
どう評価するのか

それができるのは、
どんな理念に基づき、
どんな教育の仕組み
があるからなのか

卒業時にどのような
能力を身に付けるの
か、どんな人材を社
会に送り出すのか

入学から卒業まで一貫した教育マネジメント

大学の約束



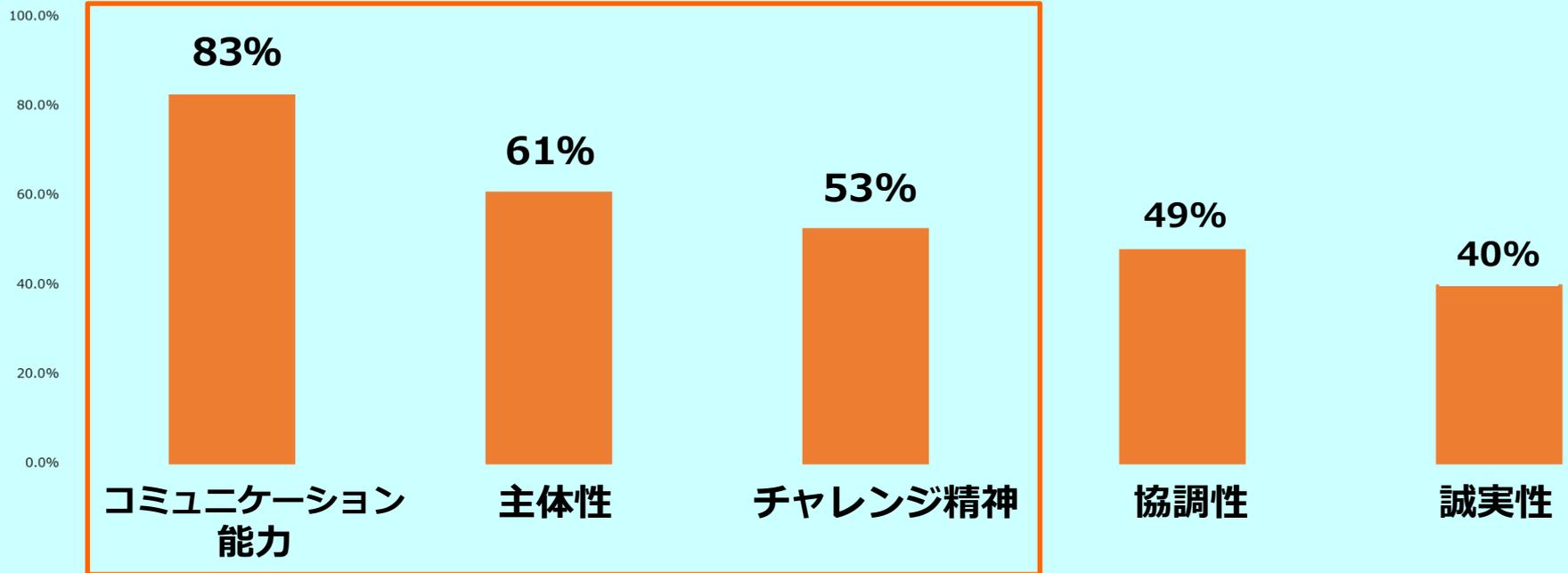
高校生の期待

企業が選考するにあたり重視する点は、

1位 コミュニケーション能力 2位 主体性 3位 チャレンジ精神

急速なグローバル化・ユニバーサル化の進展により企業の求める人材が変化。
正解のない中で、主体的に取り組みチャレンジできる人材が求めている。

■企業が選考するにあたり重視する点



※「選考にあたって特に重視した点」上位5項目

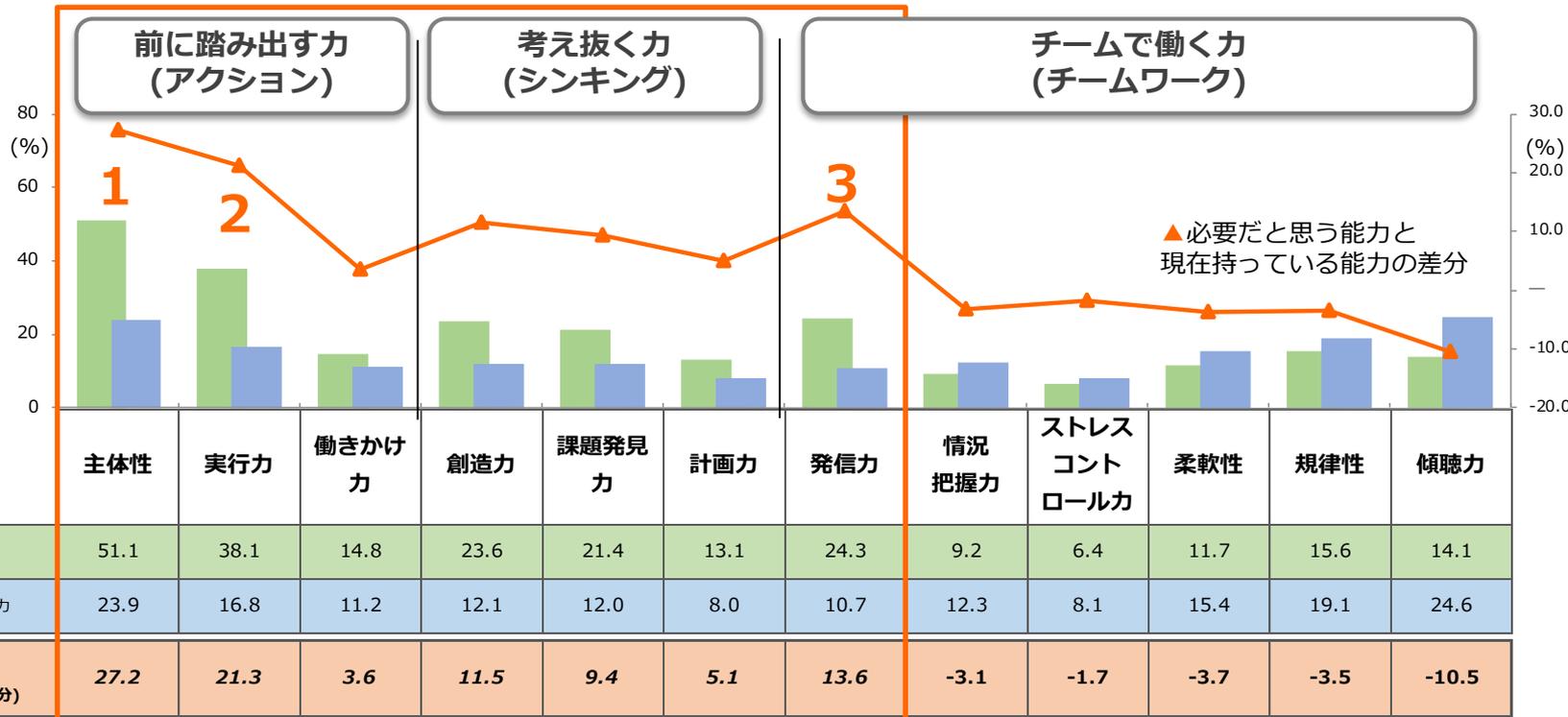
一般社団法人 日本経済団体連合会

「新卒採用（2014年4月入社対象）に関するアンケート調査結果」 N=633

経済産業省が提唱する「社会人基礎力」のうち、高校生が「将来必要だと思う」が不足している能力は、**1位 主体性 2位 実行力 3位 発信力**

『チームワーク(傾聴力や規律性)』は現在持っており強いが、
『アクション(主体性や実行力)』は将来必要だが、現在は持っておらず弱い。

■ 将来、社会で働くにあたり、必要だと思う能力と現在もっている能力とその差分

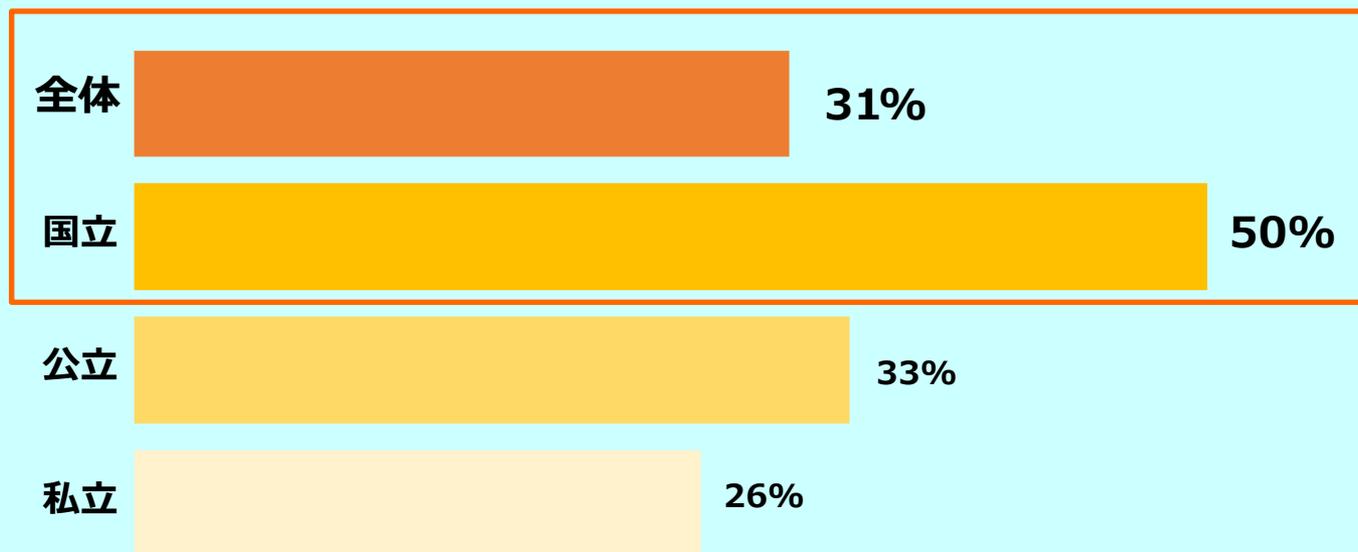


出典：リクルート進学総研「高校生価値意識調査2015」 N=1,437

大学全体 31%、 国立大学 50%が、『学生像にあった入試』を今後増やしたいと回答。

大学の個性、役割、存在価値に基づき、大学が求める学生像を明確化する。
それを理解した学生が、納得して受験する「相互選択型入試」を増やしたい意向が高い。

■ 『学生像にあった入試』を今後増やしたい



出典：「入試制度に関する学長調査（2013）」
リクルートカレッジマネジメントと東京大学 両角亜希子准教授調べ N=433校

国立大学で、入試の見直しが先行

	九州大学 学部横断の「21世紀プログラム」 募集定員26名/定員全体の1% (2001年度入試～)	東北大学 AO入試 募集定員479+若干名/定員全体の約20% (2001年度入試～)
育成したい 人材像	“21世紀を担う人材” 「専門性の高いゼネラリスト」	自ら学力修得・自己省察・ キャリア展望を描ける人材
どのような 能力を、 どのように 評価するのか	2日間にわたる、 講義・小論文・面接 一次選抜→調査書に変わる書類、志望理由書、活動歴 報告書を総合的に評価 二次選抜→講義に関するレポート、討論、小論文及び 面接を課し、その上で、提出書類の内容と合わせて総 合評価。 二次選抜は2日間にわたって実施。	優れた学力+第一志望について 深く考える自己省察 基礎学力/思考力/表現力:筆記試験、センター試験・小論文+ 意欲/適正/好奇心:志望理由書、活動報告書、面接、志願者評価書 志望理由書・面接等の準備を通して第一志望について 深く考える機会を創り、「優れた学力」を重視し、幅 広い基礎学力と豊かな人間性を兼ね備えた人を評価す る。

2015年9月14日 国立大学協会は「国立大学の将来ビジョンに関するアクションプラン」内で
2022年までに確かな学力とともに多様な資質を持つ高校生を受け入れるための入試改革：
推薦入試、AO入試、国際バカロレア入試等の拡大（入学定員の30%を目標）を公表。

「相互選択型入試」の事例② ～私立大学～

私立大学でも、大学のミッション・役割・個性を明確にし、求める学生像に合わせた入試改革が加速。

国際基督教大学

一般入試
募集定員300名/定員全体の約50%
(2015年度～)

追手門学院大学

アサーティブ入試
募集定員100名/定員全体の約7%
(2015年度～)

※アサーティブ;相手の意見に耳を傾けながら、自分の意見や考えを主張することができる態度

育成したい
人材像

論理的・批判的視点を持った
総合的思考力および
語学力を持つ人材

受験前に大学で**学ぶ目的**を考え、
主体的に学ぶ受験生の育成

どのような
能力を、
どのように
評価するのか

**「総合教養」を通じた
様々な課題に対応する能力**

A日程→総合教養+人文・社会/自然科学+
英語※リスニング含む
B日程→総合教養+個別面接+
英語※リスニング含む

※総合教養とその評価方法
-リベラル・アーツの基礎となる人文科学、社会科学
自然科学を統合した学力を判断する総合問題
-特定テーマについての講義を聴き、内容及び関連
する小論文等に関する学際的な設問に解答

受験前プログラム+
グループディスカッション・**面談**を通じた
アサーティブな姿勢
(選抜型から育成型へ)

【アサーティブプログラム】

- ①職員との個別面談
- ②大学独自開発システムMANABOSS
基礎学力の向上、多面的視点、思考力、発信力を育成
- ③アサーティブノート
進路を考えるプロセスを記録・整理
振り返ることで自己成長を促す

【アサーティブ入試】

グループディスカッション+基礎学力適性検査+個人面談
⇒面談は職員と教員がペアとなって評価

大学の個性を生かした入学者選抜が、続々とスタート

お茶の水女子大学

新フンボルト入試

募集定員20名/定員全体の約5%

(2016年度～実施予定)

藤田保健衛生大学

アセンブリ入試

募集定員14名/定員全体の約3%

(2016年度～実施予定)

* 制度設計中のため、今後変更可能性あり

育成したい
人材像

ポテンシャルが高く、尖った、
自ら問題を発見する
主体性のある学生

医療職連携の適性を
重視した人材

どのような
能力を、
どのように
評価するのか

圧倒的に突き抜けた力を
図書館入試・実験室入試で評価

一次選考→文理共通のプレゼミナール

二次選考→文系「図書館入試」

理系「実験室入試」

単に知識の多寡を問うのではなく、レポートの作成、発表、討論等を行い、**圧倒的に突き抜けた力**（情報探索力、思考力や論理構築力など）を**多面的に評価**。

チーム医療に必要な能力を
6学科混合型入試で評価

一次選考→国際適性試験・調査書及びアクティブレポート※

二次選考→科学適性試験、**6学科混合型のグループディスカッション**を課し、総合評価により選抜。

6学科；

臨床検査/看護/放/リハビリテーション/臨床工/医療経営情報

※アクティブレポート：

高校生活における諸活動の内容を盛り込み、**自己アピールの文章**となるレポートを作成。

* 制度設計中のため、今後変更可能性あり

お茶の水女子大学 新フンボルト入試

プレゼミナール(2日間)

文理約20科目の大学講義・演習を選択受講

■ 高大接続の試み

受験生に限らず、高校2年が66%参加。
92%が“とても満足”と回答。(2015年)

第一次選考

プレゼミナールへの参加、志望理由書、活動報告書、
外部外国語試験結果(TOEFL・TOEIC etc.)等

■ 外部外国語検定の活用

基礎学力評価の1つとして審査に利用。

第二次選考

図書館入試 (文系)

図書館の資料を元に課題レポート作成、
プレゼンテーション、グループ討論



実験室入試 (理系)

パターンA ; 実験・データ分析・実験演示
パターンB ; 高校での自主探究課題ポスタ発表
→口頭試問・面接
DP(※)に照らし合わせ、学科別に個別設計



■ 多面的・総合的な選考

将来必要な能力を評価するだけでなく、
圧倒的に突き抜けた力を発揮・評価できる選考方法を構築。

※DP ディプロマ・ポリシー

九州大学 21世紀プログラム



2001年よりスタートし、11期卒業生を輩出しているプログラム。「21世紀を担う人材の育成」を教育理念に、手厚く丁寧な入試（学力+2日間13時間 講義/レポート×3テーマ・グループ討論・小論文・面接）を通して多面的に主体性のある若者を選抜し、**留学率60%、退学率ゼロ**（2012-15）と高い実績を誇る。今後、本プログラムの新たな挑戦に注目が集まっている。

■ 学生の声



21世紀プログラム4年

うのき りょう
鶴木 諒 さん

鹿児島県 玉龍高校

学部の枠にとらわれず、興味関心の幅を広げられる履修スタイル。21世紀の複雑な課題を、解決していける人材になりたい。

■ 「21世紀プログラム」に興味をもったきっかけと入試について

福島原発事故をきっかけに、“科学技術”と“社会”の関係について学びたいと思ったので、科学技術をコアに幅広く関係する分野について学べるプログラムに強く興味を惹かれた。

入試対策は“天声人語”に対する意見を自分なりにまとめ、幅広い社会課題についての考察を繰り返した。

■ 「21世紀プログラム」の魅力について

たくさんの物事にチャレンジする機会があふれていること。例えば、学内の授業全てを受講できるだけでなく、他大学講義にも意識を向けられるのもとても魅力的。

追手門学院大学 アサーティブ入試

※アサーティブ;相手の意見に耳を傾けながら、自分の意見や考えを主張することができる態度



大学で学ぶことへの期待・意欲を受験前に高める「育成型入試」として、2015年からスタート。将来の自分を意識させ、**大学で何を学ぶかを問い、第1希望で入学したい受験生**のための入試。意欲・姿勢・基礎学力の達成度を含めた多面的・総合的な評価が可能。4年後には500名定員(全体定員の33%)を目指す本入試への注目度は高い。

■ 学生の声



心理学部心理学科1年

瀬々 健咲 さん

広島県 山陽高校

**学力だけではなく、人間性も見てくれる入試。
いろんなことに自ら挑戦し、一生懸命取り組み成長したい。**

■ 「アサーティブ入試」に興味をもったきっかけ

地元広島での大学説明会で知った。アサーティブ入試は1期生で不安だったが、総合的に人間性を見てくれるプログラム・入試に興味を持ち受験することを決めた。

■ 「アサーティブ入試」の魅力について

1つ目は受験前プログラム“マナボス”、2つ目はグループディスカッション。マナボスは、自分のペースで繰り返し学べるので、意欲高く積極的に学ぶことができた。他者の意見を聞きながら、自分の意見を深めていくグループディスカッションはとても面白かった。アサーティブな姿勢が評価されることがとても新鮮だった。

キーワード

大学は、
どのような人材育成し、どのような意欲や能力をもった学生を求め、どう評価するのかを
メッセージする。

高校生は、
メッセージを受けて自分に合った大学を主体的に選択する。大学と高校生が相互選択する入試。

偏差値で選ぶ入試から、大学の求める学生が受験する入試へ

相互選択型入試

■ 相互選択型入試が増加している背景には下記5点がある。

- ①これから求められる「学力の3要素」と「確かな学力」
- ②社会的後押し（政府が進める高大接続改革の動き）
- ③時代背景 ～求められる人材像の変化～
 - ・企業からの要請
 - ・高校生の課題意識
 - ・大学の変化
- ④方向性は、大学の理念にあった人材の多面的・総合的評価（学力＋意欲）
- ⑤全員ではなく、まずは教室の前から座る意欲の高い30%をどう獲得するか